

「文楽への扉」in 宇部

～文楽を楽しんで観るために～



文楽の第一線で活躍する技芸員等を招き、文楽を分かり易く解説します。伝統芸能の奥深い世界を「来て」「観て」「体感」しませんか。



竹澤 團七



葛西 聖司

出演 ● 竹澤團七、葛西聖司ほか



※昨年の文楽講座より



平成28年

1月30日 土

午後1時30分開演<開場30分前>

会場：宇部市文化会館 文化ホール

参加無料 (対象:中学生以上) ※先着500名(要事前申込)

お問い合わせ・申込先

※お電話か窓口にて下記に直接お申し込み下さい。

- (一財) 宇部市文化創造財団
☎ 0836-35-3355
- ルネッサながと
☎ 0837-26-6001

宇部市文化会館

〒755-0041 山口県宇部市朝日町8番1号
TEL 0836-31-7373 FAX 0836-31-7306

ルネッサながと

〒759-4106 山口県長門市仙崎818番地1
TEL 0837-26-6001 FAX 0837-26-6002

主催／一般財団法人宇部市文化創造財団、公益財団法人長門市文化振興財団
後援／山口県、山口県教育委員会、山口県文化連盟、宇部市、宇部市教育委員会、長門市、長門市教育委員会、長門文化協会、長門時事新聞、宇部日報社、FMきらら、FMアーク
協力／NPO法人人形浄瑠璃文楽座、株式会社わいず文化事業部

プログラム

1. 文楽とは何か(映像での解説) 藤澤 優(文楽制作者)
2. 三味線「心中重井筒」の復曲のお話 竹澤團七(文楽三味線)、葛西聖司
3. 映像を使用しての「心中天網島 北新地河庄の段」の見どころ聞きどころ 葛西聖司

※平成28年7月3日開催予定のルネッサながと文楽公演は、文楽「心中天網島」と素浄瑠璃「心中重井筒」です。

人形浄瑠璃文楽とは

人形浄瑠璃文楽は、日本を代表する伝統芸能の一つで、太夫・三味線・人形が一体となった総合芸術です。その成立ちは江戸時代初期にさかのぼり、古くはあやつり人形、その後人形浄瑠璃と呼ばれています。

貞享元年(1684)に竹本座が創設され、竹本義太夫の義太夫節と近松門左衛門の作品により、人形浄瑠璃は大人気を獲得し全盛期を迎えました。

この後、豊竹座を始めいくつかの人形浄瑠璃座が盛衰を繰り返し、幕末、淡路の植村文楽軒が大阪ではじめて一座が最も有力で中心的な存在となり、やがて「文楽」が人形浄瑠璃の代名詞となり今日に至っています。

平成15年(2003)には、ユネスコより「無形文化遺産」として宣言をうけ、世界的にも高い評価を受けています。



©渡邊肇

平成27年7月ルネッサながと公演より

竹澤團七(たけざわ だんしち)



昭和28年8月 十代竹澤弥七に入門、昭和28年9月四代竹澤二郎を名のる。昭和29年1月 四ツ橋文楽座にて「寿式三番叟」「壺坂観音霊験記」で初舞台をふむ。昭和56年4月 四代竹本津大夫の相三味線となり竹澤團七と改名。「義士銘々伝・弥作鎌腹の段」で披露(昭和62年9月津大夫の死去まで相三味線をつとめる)。

葛西 聖司(かさい せいじ)



アナウンサー・古典芸能解説者。東京都生まれ、中央大学法学部卒業。NHK エグゼクティブアナウンサーとしてテレビ、ラジオのさまざまな番組を担当。現在はその経験を生かし、歌舞伎など古典芸能の解説や講演、また日本伝統文化の講義などで大学の教壇にも立ち、朗読教室や執筆活動も続けている。歌謡曲ステージ司会も定評がある。著書に「文楽のツボ」(NHK出版)、「名セリフの力」(展望社)、「ことばの切っ先」(展望社)。共著として、「能楽史事件簿」(岩波書店)、「能狂言なんでも質問箱」(檜書店)、対談集「赤川次郎著・三毛猫ホームズの談話室」(光文社文庫)などがある。日本演劇協会会員(評論)／早稲田大学公開講座講師、NHK文化センター・朝日カルチャーセンター講師、日本体育大学非常勤講師／山梨文化学園講師。

宇部市文化会館

〒755-0041 宇部市朝日町8番1号
TEL 0836-31-7373 FAX 0836-31-7306

- ・電車…JR宇部新川駅下車 徒歩3分
- ・バス…宇部新川駅バス停 徒歩3分
- ・車…宇部I.C.から約15分

※会場には十分な駐車場がございません。
できるだけ公共交通機関をご利用ください。

